

## 〈特派員メモ〉 ニューヨーク 1票への熱い反響

朝日新聞 2012年12月27日

(青太文字は引用者がそうしました。)

こちらが痛いと思うほど、力がこもっていた。

国連総会でパレスチナがアラブ諸国など138カ国の賛成を集め、「オブザーバー組織」から「オブザーバー国家」へ格上げを決めた先月末の採決後、パレスチナ人の外交官に握手を求められた。

**米国は反対し、英国や韓国など米国とつながりの深い国は棄権した。米国の同盟国である日本が、米国と立場を異にしてパレスチナを支持したことに、繰り返し感謝された。**

レバノンやサウジアラビア、モロッコの外交官、記者からも「日本は正しい選択をした」と声をかけられた。国連を担当して2年近くになるが、日本の投票にここまで反響があったのは初めてだ。

米国とともに反対していたら、どうなっただろうか。後日、アラブ諸国の外交官が集まった席で尋ねると、「日本を尊敬できなくなっていたら」という声が相次いだ。

国連は各国の思惑が渦巻き、様々な駆け引きが演じられる場。日本の1票にはマイナス面もあろう。でも、こんなに熱く受け止められているのだ。中東和平にとっても、日本にとってもプラスになると信じたい。

【春日芳晃】